

- 問1 縄文時代における自然環境の変化と人々の暮らしの関係について、正しい背景を説明しているものはどれですか。 (2022年 山口県公立入試 類似)
1. 温暖化により落葉広葉樹林や照葉樹林が広がり、ドングリなどの木の実に豊富になったため、採集活動が重要な食料確保手段となった。

2. 激しい気候変動を乗り切るために、共同体で大規模な金属器の生産を行い、近隣の集落と食料を奪い合う戦争が日常化した。

3. 寒冷化によって大型動物が絶滅したため、人々は食料を求めて移動を繰り返す洞穴での生活を余儀なくされた。

4. 大陸と陸続きになったことで新たな家畜が持ち込まれ、広大な牧場での放牧を主体とした生活へと移行した。
- 問2 日本の東北地方、現在の青森県に位置する縄文時代を代表する遺跡について、その名称と時代の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2023年 徳島県公立入試 類似)
1. 吉野ヶ里遺跡 — 弥生時代

2. 三内丸山遺跡 — 縄文時代

3. 登呂遺跡 — 弥生時代

4. 三内丸山遺跡 — 弥生時代
- 問3 縄文時代の遺跡から出土する、表面に縄目の文様が施されたり、大きな眼鏡のような目を持つ「遮光器土偶」などの土製品について、その当時の使われ方として最も適切な説明を選びなさい。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
1. 稲作が普及した社会において、収穫した米を保存するための頑丈な容器として使われた。

2. 大陸から伝わった仏教の教えに基づき、寺院の内部を飾るための仏像として使われた。

3. 食物の豊穡や安産、病気の回復などを願うための、呪術的な道具として使われた。

4. 亡くなった豪族の墓である古墳の周囲に並べ、死者の霊を慰めるために使われた。
- 問4 縄文時代の人々の生活や文化について、食料の確保方法とその際に用いられた道具の組み合わせとして最も適切なものを次の中から選んでください。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)
1. 牛馬を利用した耕作や二毛作が広まり、収穫した作物を都市の市場で売買取引する生活が一般的となった。

2. 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。

3. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を使い、大規模な開墾を行うことで、余剰生産物を蓄えるようになった。

4. 本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や、祭祀のための銅鐸が用いられた。
- 問5 青森県にある三内丸山遺跡をはじめ、日本各地の縄文時代の遺跡から見つかる「土偶」について、その製作背景や当時の生活の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)
1. 本格的な稲作が広まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や金属器が普及する中で、魔除けとして作られた。

2. 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。

3. 大陸から伝わった仏教の教えが広まり、寺院の本尊として拝むために精巧に作られた。

4. 王や豪族といった有力者が現れ、巨大な前方後円墳が築かれた際に、死者を弔うために作られた。
- 問6 約1万年以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)
1. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された

2. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した

3. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた

4. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた
- 問7 日本の北方に位置する地域に古くから居住する先住民族と、その文化に関する記述として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2024年 山形県公立入試 類似)
1. 沖縄などの南西諸島を中心に独自の王国を築き、中国や東南アジアとの中継貿易によって繁栄した。

2. 古代に朝鮮半島や中国大陸から移住し、日本列島に稲作や青銅器・鉄器などの進んだ技術を伝えた。

3. 平安時代以前に東北地方に住み、朝廷の支配拡大に対して抵抗を続けたことで「蝦夷（えみし）」と呼ばれた。

4. 北海道や千島列島などを主な居住範囲とし、シリエトク（知床）などの地名の由来にもなっている独自の言語を持つ。
- 問8 三内丸山遺跡の調査結果から推測される、縄文文化の生活や社会の様子について正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 福島県公立入試 類似)
1. 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。

2. 大規模な灌漑設備を用いた水田稲作が普及し、食料を蓄えるための高床倉庫が主流となった。

3. 大陸から青銅器や鉄器が伝わり、武器や祭具として使用されることで集落間の争いが激化した。

4. 前方後円墳などの巨大な墳墓が築かれ、広域を支配する強力な王権が誕生していた。
- 問9 縄文時代の人々は、竪穴住居に住み、狩りや漁、採集を行って生活していました。こうした生活の中で、食べた後の貝殻や動物の骨、役目を終えた石器や土器などが一定の場所に積み重なって形成された、当時の生活を知るための重要な考古学的資料となる遺跡を何と呼びますか。 (2018年 香川県公立入試 類似)
1. 貝塚

2. 古墳

3. 高地性集落

4. 環濠集落
- 問10 縄文時代の人々が、食物の豊作や子孫の繁栄、あるいは病気や怪我の治療などを願うための信仰として用いた、女性をかたどった土製の像を何と呼びますか。 (2023年 香川県公立入試 類似)
1. 土偶

2. 銅鐸

3. 埴輪

4. 石包丁
- 問11 縄文時代には、重く割れやすい土器や土偶の制作、長期間の生活痕跡である貝塚の形成といった文化がみられます。これらの文化が形成された背景となる当時の人々の生活様式について、最も適切な説明を選びなさい。 (2026年 熊本県公立入試 類似)
1. 支配者の権力を示すために、巨大な古墳を造営して周辺で暮らしていた。

2. 竪穴住居などを拠点とし、一定の場所に定住して暮らすようになった。

3. 大型の野獣を狩猟するため、獲物を追って各地を移動しながら暮らしていた。

4. 本格的な水稲耕作を行い、大規模な環濠集落をつくって暮らしていた。
- 問12 縄文時代における食生活の工夫と、それに伴う住環境の変化について述べた文として正しいものはどれですか。 (2016年 愛知県公立入試 類似)
1. 狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ

2. 大陸から伝わった稲作が広まったことで食料の余剰が生まれ、それを保管するために高床倉庫が普及した

3. 青銅器や鉄器などの金属器を用いて効率的に食料を生産するようになり、外敵を防ぐための環濠集落が作られた

4. 氷河期が終わり温暖になったことで大型動物が絶滅したため、移動を繰り返しながら洞窟で暮らすようになった